地學雜誌

東京地学協会

TOKYO GEOGRAPHICAL SOCIETY
Founded in 1879

2000 VOL.109

NO.

5

表 紙

ネパールヒマラヤ，アンナプルナ山群とフェア湖

ヒマラヤの山間盆地堆積物には，最近のヒマラヤの上昇とモンスーン変動の記録が残されている．中央ネパールのポカラ盆地は標高 830 m のレッサーヒマラヤに位置し，亜熱帯気候下にある．直ぐ北側には 8000 m 級のアンナプルナ山群が聳え立っており，盆地内には大小 8 つの湖が分布している．その中で最大のフェア湖に流入するハーバン川の河口には，鳥趾状湖成デルタが形成されており，沖合には泥質の湖成層が堆積している．ネパールの首都カトマンズも 6000 年前までは湖であり，北部にはこのようなデルタが，そして南部には泥質の湖成層が広がっていたことが推定されている．（酒井ほか論文参照）

（写真・解説：酒井治孝 HARUTAKA Sakai）